

科目名		建築実務			
担当教員	廣田 邦昭	実務授業の有無	○		
対象学科	建築大工科	対象学年	2	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数		時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	SKETCHUPで、簡単なモデリングができるようにし。建築空間の表現・伝達に必須知識・技術を、学ぶ実習。 1. 座学→演習・実習→添削と解説を繰り返し行い習得レベル差ごとの指導も適宜行う。 2. 各アプリの基礎操作を中心に見方、描き方を解説・演習する。 3. 1年次に作成したオリジナル住宅の作品にSKETCHUP用いて完成させ、評価、解説を行う				
学習目標 (到達目標)	3DソフトSketchUpを使い、建物を立体的に考える力を身につける。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	やさしく学ぶSketchUp				
NO.	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	SketchUpをインストール ①SketchUpの紹介 ②インストールをします。	SketchUpの紹介及びインストールをします。			
2	SketchUpの基本操作 ①簡単な建物や家具のモデルを作成等の基本操作	方法：操作方法の説明と解説し、練習課題の演習。 図形や画像の活用理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、自宅でのPC操作を練習する。			
3	住宅のモデルを作成 ①1年次に作成した住宅図面データから住宅のモデルを作成。	方法：操作方法の説明と解説し、練習課題の演習。 図形や画像の活用理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、自宅でのPC操作を練習する。			
4	SketchUpでの表現方法を学ぶ ①住宅もモデルの1シーンを演出する為の表現方法。	方法：操作方法の説明と解説し、練習課題の演習。 図形や画像の活用理解できている。 準備学習：テキストを見ながら、自宅でのPC操作を練習する。			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
課題作品の課題評価点数に加え、通常の授業態度などを加味して総合的に判断します。 課題評価80% 平常点20% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		建築製図の基礎でもある住宅モデリング課題をSKETCHUPの基本操作で習得したうえで作成します。 建築士試験に対応できる知識と技術を身につけるため。基本を固め、演習を繰り返すことにつけてスキルを上げていく。個人作業が主体で、レベル差が出やすいので、適宜個人指導も行う。			
実務経験教員の経歴 店舗設計、現場監督に41年従事					